

環境マネジメント    マテリアルバランス    日野環境チャレンジ2050  
CHALLENGE! 1    CHALLENGE! 2    CHALLENGE! 3    CHALLENGE! 4    **CHALLENGE! 5**    CHALLENGE! 6    主要パフォーマンスデータ

## CHALLENGE! 5 廃棄物ゼロチャレンジ

TARGET 各事業所で

### 持続可能な資源利用 廃棄物ゼロ



世界人口は増加し、経済発展による資源枯渇のリスクは年々高まっています。また大量消費社会の副産物となる廃棄物も増加を続け、このままでは適正な処理が追いつかずに、深刻な環境汚染へとつながりかねません。日野グループでは「廃棄物ゼロチャレンジ」という高い目標を設け、廃棄物低減に向けた取り組みを進めると並行し、資源利用効率化に徹底的に取り組み、将来的な環境汚染防止を図ります。

#### 3Rで

#### 廃棄物を出さない



車両を製造する際に排出される廃棄物の削減を図るため、3R(Reduce、Reuse、Recycle)を進め、廃棄物の「減容化」、「再利用化」、「リサイクル化」をグループ各社、取引先などと連携し、追求します。



#### 古い車を活かした

#### 新しい車づくり



バッテリー、モーターといった各部品には、レアメタルやその他貴金属類に代表される天然資源が含まれています。日野グループはそれら天然資源を含め、廃棄される車両から少しでも多くの資源を取り出し、新しく製造する車両に活用する「Car to Car」を極限まで追求することで、新規資源投入量削減に取り組みます。



## 工場における省資源事例

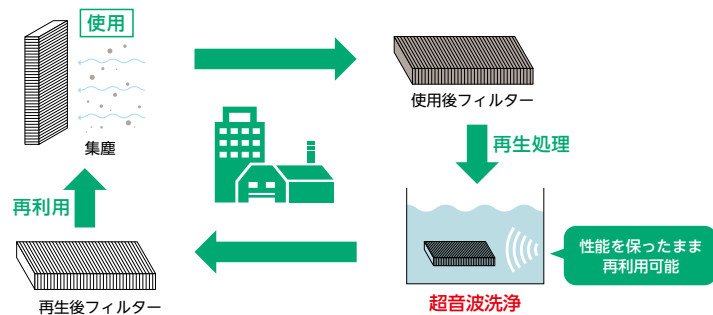
廃棄物を出さない

日野自動車では、長期環境ビジョン「日野環境チャレンジ2050」に向けた活動のひとつとして、廃棄物低減にも取り組んでいます。近年では、これまで再利用することのできなかったものについても徹底的に見直しをおこない、社内での再利用に努めています。

- 主な取り組み事例**
- 排水処理場汚泥の減容化
  - 鋳造型時の砂使用量低減
  - ろ過フィルター設置による機械加工廃液のロングライフ化

### 事例 | 集塵フィルターの再利用化

使用を終わった後、性能を復元できずに廃棄するしかなかった集塵フィルターに対し、超音波洗浄等の処理をおこなうことで、再利用が可能となりました。



## リサイクル性を考慮した製品設計

廃棄物を出さない    新しい車づくり

日野自動車は1990年代初頭より、リサイクル性を考慮した製品開発、設計に取り組んでいます。1998年には「自主行動計画」を策定し、リサイクル率等の具体的数値を掲げ、活動の強化を図ってきました。また近年の国内外の環境負荷物質規制に対応すべく、早期の削減に取り組んできました。

製品の開発段階からリサイクルしやすい材料の採用や製品の部品解体性の向上など、様々な観点からリサイクル性を高めるチャレンジを進めています。

## 再資源化段階での環境活動

廃棄物を出さない    新しい車づくり

日野自動車は、2005年から施行された自動車リサイクル法（使用済自動車の再資源化等に関する法律）を順守し、多くの関係事業者のご協力のもと、使用済みの車両から発生するシュレッダードガスト（以下ASR）、エアバッグ類、フロン類の特定3品目の引き取りと適正なりサイクル処理を実施しています。

2017年度のASRのリサイクル率は98%となり、法定基準70%を達成しています。また、より解体しやすい車両構造の検討やリサイクル可能材料の採用など、開発段階から環境に配慮した製品づくりを進め、循環型社会の形成と資源の有効活用に継続的に取り組んでいます。

 「自動車リサイクル法に基づく再資源化等の実績」はこちら